

## 理事長挨拶

### 今期理事長としての抱負

武田雅俊 日本精神神経学会理事長  
Masatoshi Takeda

第111回日本精神神経学会学術総会（2015年6月4～6日）はWPA Regional Congressとの合同開催でありましたが、国内外から約7,000名の参加者を得て成功裏に終了いたしました。大会運営に関与された多くの方々に参加いただいた会員の皆様にご心より御礼申し上げます。

学術総会に合わせて開催された代議員総会において選挙による理事20名の選出が行われました。そして6月4日の新理事会において、私が理事長に選出され、神庭重信先生と細田眞司先生とを副理事長、松田ひろし先生を財務担当理事とする執行部が承認されました。理事長、両副理事長、財務担当理事からなる執行部メンバーはこれまでと同じ顔ぶれであり、継続性をもってこれから2年間のかじ取り役を務めさせていただくことになりました。

前期の執行部では、1. 専門医制度の定着と発展、2. 精神科医療を構成する各種団体との協力体制の強化、3. 学会の国際化、4. 親学会としての役割の充実、5. 精神科へのリクルート活動、6. 精神医学の研究推進活動、7. 精神科医療の実態調査と課題を提示するための調査研究活動、8. 精神科領域の病名・用語の整理に関する活動、9. 会員の声を反映できる代議員制度の運用、10. 会員・代議員会・理事会の情報共有体制の確立、の10項目を掲げて活動してきました。学会の国際化、DSM-5とICD-11への対応、財務管理の透明化、事務局機能のオンライン化などは十分に目に見える成果を上げ得たものと思っておりますが、いまだ不十分な項目もありますので、引き続き上記10項目を活動方針として掲げさせていただきます。

本学会が現在直面している最大の課題はなんといっても専門医制度の構築です。ご承知のように、2014年に日本専門医機構が発足し、この機構のもとで専門医制度が大きく変わろうとしています。専門医機構では2020年度から機構認定専門医制度を開始したいとしておりますので、当学会

の専門医制度を機構からの要件とすり合わせて、2017年度に研修を開始する専攻医のために新しい研修プログラムを作成しなければなりません。新たな研修プログラムでは、複数の施設を組み合わせる研修施設群とすることが決められており、この基準を満たした研修施設群を作り上げなければなりません。

このような時間的に余裕のないスケジュールが設定されておりますので、本学会でも専門医制度整備委員会を立ち上げて最優先課題として取り組んでまいりました。今回の代議員総会において日本専門医機構による専門医制度に移行することを承認していただき、現時点での精神科専門医研修プログラム整備基準と機構認定精神科専門医更新基準についてご審議いただきました。これからは今まで以上のスピード感をもって規則・細則の改定、研修施設群の設定、研修プログラムの策定などをこなさなければなりません。2016年に研修施設群と研修プログラムを提示して2017年に研修を開始する専攻医のための環境整備を推し進めたいと思っております。

本学会専門医制度が日本専門医機構の指針に合わせた専門医制度に移行することについて多くの議論がありました。2004年に設立した本学会専門医制度は、他学会と比較しても新しいものでありその理念や内容について十分な議論を経て作り上げられたものでありますが、約10年の経験を経て、指導医資格のあり方、研修施設の基準、研修内容の点検などの課題も明らかになってきています。新たな機構認定専門医制度への移行を契機に、精神科専門医制度の設立に至ったこれまでの議論や経緯を尊重しつつ、より良い専門医制度を志向しながら実務をこなしていきます。

これからの2年間、20名の理事が一致協力して、より良い精神科専門医制度を構築するために取り組んでまいります。会員諸氏のご理解とご協力をお願い申し上げます。